

2025年 経済価値ベースの評価・監督手法に関する フィールドテストの結果概要について

金融庁では、経済価値ベースの評価・監督手法の検討の一環として、これまで数次にわたるフィールドテスト(FT)を実施し、各社の対応状況、実務上の問題点や定量的な影響度等の把握・分析を進めてきた。

以下では、2025年に実施したフィールドテスト(以下、「FT25」という)¹における、単体ベースのESR等に関する結果概要を示している。

<実施内容>

- 対象会社：国内全保険会社(生保:41社、損保:57社)、単体ベース及び(最上位の)連結ベース
- 計算基準日：2025年3月末(実施期間:2025年4月～2025年11月)
- 実施内容：
 - a. パブリックコメントにおいて公表された法令案等に基づいたESR計算
 - b. 規制施行に向けた情報収集等

<ESR>

単体ベースの全社平均ESR²は表1のとおりであった。

表1 全社平均ESR

	生保単体			損保単体		
	ESR	適格資本	所要資本	ESR	適格資本	所要資本
2025年3月末基準	215%			203%		
前回からの変動	▲4pt	▲2%	1%	3pt	▲7%	▲8%

¹ FT25の仕様は、令和6年10月31日から令和6年12月2日の期間に実施したパブリックコメント(「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する保険業法施行規則の一部改正(案)」等の公表について)において公表した法令案等及び令和7年1月31日から令和7年3月3日の期間に実施したパブリックコメント(IAISにおけるICSの採択等に伴う「経済価値ベースのソルベンシー規制(第1の柱)」に関する告示案」等の公表について)において公表した法令案等に基づいて実施。

² 「(適格資本の全社単純合計)÷(所要資本の全社単純合計)」として算出。

＜適格資本の変動要因＞

2024年3月末基準のフィールドテスト(FT24)の適格資本(全社計)を100%とした場合の、各要因に係る適格資本の変動は表2のとおりであった。

表2 適格資本の変動要因

適格資本の変動要因	生保単体	損保単体
2024年3月末基準(FT24)	100%	100%
a. 計算方法の変更	0%	▲1%
b. 基準日の変更	1%	1%
c. 新契約価値	2%	0%
d. 非経済前提の変更	▲3%	1%
e.i. 円金利の変更	▲1%	0%
e.ii. 米ドル金利の変更	0%	0%
e.iii. 豪ドル金利の変更	0%	0%
e.iv. 株式・不動産の変更	▲2%	▲4%
e.v. 為替レートの変更	▲1%	0%
e.vi. その他の経済前提の変更	▲1%	0%
f.i. 資本取引(Tier1)	▲2%	▲7%
f.ii. 資本取引(Tier2)	1%	0%
g. 保有・出再方針の変更	0%	0%
h. 期待収益の超過	2%	3%
i. その他の要因	1%	2%
2025年3月末基準(FT25)	98%	94%

(参考)主な経済指標の動向

		2025年3月末	2024年3月末
円金利	10年	1.49%	0.73%
	30年	2.53%	1.82%
米ドル金利	10年	4.21%	4.20%
	30年	4.57%	4.34%
日経平均		35,617円	40,369円
為替(米ドル)		150円	151円

＜所要資本の変動要因及び構成＞

所要資本(全社計)の FT24 からの変動及び FT25 における構成は表 3 のとおりであった。

表 3 所要資本の変動及び構成

リスクカテゴリー	生保単体		損保単体	
	変動率	構成比	変動率	構成比
生命保険リスク	4%	31%	▲1%	3%
損害保険リスク	0%	0%	20%	13%
巨大災害リスク	▲13%	1%	19%	16%
市場リスク	▲2%	55%	▲15%	61%
金利リスク	▲14%	(9%)	▲19%	(2%)
スプレッドリスク	▲2%	(4%)	▲7%	(1%)
株式リスク	▲2%	(46%)	▲19%	(60%)
不動産リスク	10%	(8%)	3%	(5%)
為替リスク	3%	(29%)	▲2%	(26%)
資産集中リスク	▲7%	(4%)	▲26%	(7%)
信用リスク	9%	10%	22%	4%
オペレーショナルリスク	▲4%	3%	31%	3%
所要資本(分散効果及び税効果考慮前)	1%	100%	▲5%	100%
分散効果	3%	▲21%	11%	▲20%
税効果	1%	▲17%	▲11%	▲17%
所要資本(分散効果及び税効果考慮後)	1%	62%	▲7%	63%

(注)構成比は所要資本(分散効果及び税効果考慮前)に対する比率。ただし、市場リスクの各サブカテゴリーの構成比は市場リスクの各サブカテゴリーの単純合計に対する比率。

＜経済前提に対する感応度＞

経済前提に対する感応度は表 4 のとおりであった。

表 4 経済前提に対する感応度

シナリオ	生保単体			損保単体		
	ESR	適格資本	所要資本	ESR	適格資本	所要資本
(2025年3月末基準)	214%			203%		
円金利 50bps 上昇	▲8pt	▲1%	3%	0pt	0%	0%
円金利 50bps 下降	6pt	0%	▲2%	0pt	0%	0%
円金利 UFR50bps 下降	▲1pt	0%	0%	0pt	0%	0%
米ドル金利 50bps 上昇	▲1pt	▲1%	▲1%	0pt	0%	0%
米ドル金利 50bps 下降	1pt	0%	1%	0pt	0%	0%
株式・不動産 10%下落	▲5pt	▲7%	▲4%	▲6pt	▲6%	▲3%
為替 10%円高	0pt	▲4%	▲4%	1pt	▲5%	▲5%

(注 1) ESR は各シナリオにおける上昇(低下)幅、適格資本及び所要資本は各シナリオにおける増加(減少)率を表す。

(注 2) 同時に 2 つの前提を変化させた場合の感応度は、それぞれの感応度の合計とはならない可能性がある。

(注 3) 円金利 50bps 上昇/下降シナリオ及び米ドル金利 50bps 上昇/下降シナリオにおいては、UFR を固定する取扱いとしている。

以上